

経済と地域社会の発展月間

今の状況の中で何が必要なのだろうか。



日本銀行前橋支店前支店長
岡山 和裕(元前橋RC)

今月10月は「経済と地域社会の発展月間」。なので、経済についての寸考を記したい。

まず、「経済」の語源をご存知だろうか。英語の「economy」の訳語として、福澤諭吉が考案したという説もあるが、それ以前から訳語として使われていたらしい。では、「経済」という言葉はどこから来たのか。「世の中を収め、人民を救う」という意味の漢語の「経世済民」が語源だと言われている。すなわち、治世者からの目線が語源だったのだ。

では、実際の経済はどうだろうか。もちろん、政策的な意味合いもあるが、個々の人々や個々の企業の行動が経済の内容や方向性を決めている側面が強いのではないか。

その証拠に、今回のコロナウイルスへの対応から、個人や企業の行動が変化したため、経済活動の中身が変わってきているということだ。ニューノーマル、非接触、リモート、デジタル技術、テイクアウト、デリバリーなどが、最近のキーワードとして挙げられるのも、その証左だ。

では、今回の危機については、どのように見れば良いのか。人類は感染症との戦いの歴史だと良く言われるが、今回と同規模の死者数を出した感染症は1960年代の香港風邪であり、この時とは比べものにならないほど、グローバル化が進んでいる。また、治療方法やワクチンの帰趨が分からないため、不確実性が高いのは事実である。

もっとも、最近の経済危機のリーマンショック、バブル崩壊の時も、あそこまで大きな信用収縮が発生するというのを、事前に想定できていたかということ、殆んどの人がそうではないだろう。それでも、大きな痛みを伴いながらではあるが、打開策を講じて危機を乗り切ってきたのだと思う。

その際のポイントは何だったのだろうか。当地に来てから様々な経営者の方々にお話をお伺いする機会を得た。そうすると、①試行錯誤しながらも、撤退する時には一気に撤退する、②需要の変化を早く捉えて、リスクを取って事業内容を早く変更する、③一時の成長よりも安定性を優先する



など、経営者によって違うが、様々な勘所を教えていただいた。

そして、何と言っても、事業内容が堅調な先の経営者は、自社の強みを磨き上げ、伝統の良さを進化させておられる。また、性格がポジティブであるほか、現場を大事にされている。

野球では「ピンチの後にチャンスあり」と言われる。もちろん、ピンチに対応できるだけの備えをしておかないといけないが、ピンチの後にチャンスがやってきたと思えば、そのチャンスをタイミングよくしかもしっかりした行動力で実現することが大事なのではないかと思う。

今の日本経済のピンチをチャンスに繋げていくのは、やはり個人であり、経営者の周到で素早い情報収集力、状況判断力、意思決定力、行動力が重要なのだと思う。

日本だけでなく地球レベルで厳しい時代ではあるが、世界経済に繋がっている群馬県の益々の発展を願う。

以 上

※岡山前会員は、この寄稿後、日本銀行本店検査室検査役へ栄転されました。